



TITLE:

雜纂

AUTHOR(S):

CITATION:

雜纂. 日本外科宝函 1934, 11(1): 284-291

ISSUE DATE:

1934-01-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/203414>

RIGHT:

雜 纂

日本外科實函創刊 10 週年祝賀

猪 子 先 生 閑 話 (第 3 回)

京都帝國大學醫學部講師 藤 浪 修 一 筆 記

第 5 話

始メテ腸切除ヲ行ツタノハ濃美大震災ノ時ダツタ。濃美大震災ハ明治24年ノ11月デ、自分ハ京都ノ赤十字ニ關係シテ居タノデ、早速赤十字ニ救護班派遣ヲ進言シタガ、戰時ニ救護班ヲ派遣スルノガ赤十字ノ規則デ、今マテ天災ヤ事變デ救護班ヲ派遣シタ例ガ無イト云フノデ斷ツテ來タ。

然シ非常ナ震害デ、多數ノ死傷モアリ、且醫療機關ノ無イコトハ解リ切ツタコトダカラ、知事ノ許可ヲ得テ、赤十字社ト關係ナシニ自ラ救護班ヲ編成シ、今大垣ニ居ラレル吉益君ト學生2、3人ニ小使ヲ連レテ岐阜ヘ出カケタ。

災害地ニ着イテ、2、3日シテカラ、京都ノ赤十字ノ救護班トシテ診療ニ從事シテ呉レトノ頼ミデ、ソレカラハ赤十字ノ救護班トシテ働イタ。

災害地デハ壞レ殘ツタ小學校ノ校舍ヲ手術場ニ當テ、主トシテ切斷術ヲ行ツテ居タ。當時ハ外科手術ガ大變ニ珍ラシイノデ、近隣ノ醫者ヤ、又縣廳ノ役人ガヨク見學ニ來タ。

手術場ハ小學校ノ校舍トテ不完全極マルモノダツタガ、手術成績ハ比較的良好ダツタ。ト言フノハ建物ガ病原菌デ比較汚染サレテ居ラナカツタカラダ。ソレデ、ヨク人ニモ言ヒ、又前ニモ既ニ言ツタカモ知レヌガ、手術場ハ木造ノ簡單ナ物デヨイカラ、少シ古クナレバ焼捨テ、新シイノニ替ヘタ方ガ手術成績ガヨイダラウト考ヘテ居タ。

此ノ災害地デ始メテ腸ノ切除術ヲヤツテ見ルコトガ出來タ。前カラ試ミ度ク思ツテ居タノダガ、ヨイ症例ニ出遭ハサズニ居タノダ。地震ノ時、梁ガ落チテ來テ、患者ノ腹ニ強く衝突シ、S字狀結腸ガ材木ト腸骨トノ間ニ挟マレテ挫滅シ、ソコニ癒痕性狹窄ヲ起シテ來タノダ。

矢張り小學校ノ一室デ腹ヲ開イテ、狹窄部ヲ切除シタ。狹窄部ノ上部ガ強く膨滿シテ居タノデ、上位ノ腸ヲ斜ニ切斷シ、ソノ斷端ノ一部ヲ縫合シテ、下部ノ腸斷端ト適合スルヤウニシテ吻合ヲ行ツタ。

ソレカラ、又震害地デ Tetanus ヲ7、8人見タガ、大概ハ農家ノ人ダツタ。壁土ノ中ニ Sporen ガ居テ、感染シタモノラシイ。勿論豫後ハ皆惡カツタ。

此ノ災害地ニ1ヶ月程滞在シ、相當獲ル所ガアツタ。ソノ翌年ノ4月ニ洋行シタノダガ、岐阜縣ヨリノ懇望デ、ソレ迄1週ニ1回宛患者ヲ診察ニ行ツテ居タ。

第 6 話

始メテ外國へ行ツタノハ、明治25年ノ4月ダ。歐洲デハ主トシテ伯林ニ居タ。其ノ頃伯林ニハ鏝々タル連中ガ澤山居タ。腎切開法デ名ガ知レテ居ル伯林大學ノ Bergmann、此ノ人ハ思ツタ程デモ無カツタ。Moabit-Krankenhaus ニハ Sonnenburg ガ居タ。蟲様突起炎ノ早期切開ヲ唱ヘテ居タ人ダ。其ノ頃ニハ今行ツテ居ル蟲様突起切除術ハ未ダ行ハレテ居ラズ、蟲様突起炎膿瘍ヲ切開スルカ否カガ問題ーナツテ居タノダ。

自分ハ日本ニ居ル時ニ此ノ人ノ著書ヲ讀ミ、ソノ理論ガ大變ニ面白ク思ヘタノデ、Sonnenburgノ所へ行ツテ手術ヲ見セテモラツタガ、手術ハ大變ニ厄介ナモノダツタ。切角出來タ癒着ヲ一生懸命剝離シテ膿瘍ニ達シテ、之ヲ切開スルノdeal。此ノ手術ヲ見テハ、日本ヘ歸ツテ早速行ツテ見ル氣ハ起ラナカツタ。然シ理論家トシテ、Sonnenburg ハ大シタ者ダツタ。

又、始メテ膽石ノ手術ヲシタ Langenbuch モ伯林ニ居タ。此ノ人ノ手術ハ非常ニ手荒イ亂棒極マルモノデ、ソノ亂棒サ加減デ膽石ノ手術ヲヤツテシマツタト云フ位デアツタ。

此ノ様ナ人ノ所ヲ見學シテ廻リ、ソシテ Virchow ノ許デ學ンデ居タガ、Wien ニハ Billroth ガ居テ、大變ニ有名ダツタ。自分モ非常ニ行キタカツタ、其頃 Wien ハ物價ガ高く滞在費ガ嵩ムト云フノデ日本ノ留學生ハ大概引揚ゲテシマツタ。然シ自分ハドウシテモ Billroth ノ許ニ行キ度イ。ウント自分ノ生活程度ヲ低クシタナラ何トカヤツテ行ケルダラウ。マア行ツテ見ヨウト決心ヲシテ、Virchow ニ別レテ告ゲニ行ツタ。ソウスルト Virchow ハ何處へ行クノカト尋ネルカラ、Billroth ノ所へ行キ度イト言ツタトコロ、紹介狀ヲ書イテヤラウト云フ譯デ、Virchowノ紹介狀ヲ懷ニシテ、Berlin ヲ出發シタ。同行ニ侍醫ヲシテ居タ原田ト云フ人ト一緒ダツタガ、2人シテ何トカ廉ク行キヤウニシヨウゼト相談ハシテ居タモノノ、2人トモ Wien ハ未知ノ土地ダ。Wien ニハ日本人ノ定宿ガアルノダガ、ソレハ一流ノ旅館デ、ソナ所ニ泊マツタナラ大變ダ。2人シテ旅行案内ヲ繰ツテ相談シタ。此ノ旅行案内ニハ旅館ノ在リ場所モ宿賃モ書イテアルノデ、相談ノ擧句、停車場ノスグ前ニアル旅館ニ泊ラウト云フコトニナツタ。ソレデ、Wien ニ着イタノハ夜ダツタガ、赤帽ニソノ旅館ヘ荷物ヲ持ツテ行ク様ニ命ジテ、自分等ハ歩いて其處へ行ツタ。ソシテ門番ニ今晚泊メテ呉レト言ツタトコロ、部屋ガ無イト斷ラレテシマツタ。ソレニハ弱ツタ。行ケバ泊マラレルモノト思ヒ赤帽ニ荷物ヲ托シタノダガ、未ダ來ナイ。仕方ガ無イノデ、門番ニ赤帽ガ來ルマデ、此處デ休マセテ呉レト少シノ金ヲ握ラシタトコロ、自分ノ部屋デ休メト入口ノ傍ノ部屋ヘ連レテ呉レタ。其處カラハ入口ガヨク見ヘル。オ客サンガドンドン入ツテ來ル。然モ皆婦人同伴ダ。部屋ガ無イト斷ツテ居ルクセニト思ツテ居ル内ニ解ツタ。ツマリ淫賣窟ナノダ。女ト一緒ナラ泊メヨウガ、ソコヘ野郎2人ガ飛ビ込ンダノダカラ、泊メヨウ筈ガ無イ。ソレデ荷物が來ルト早々其處ヲ飛ビ出シテ、高イ廉イニ文句言ツテ居レヌノデ、日本人ノ定宿ト云フ旅館へ行ツタ。

自分ハ今デモ珈琲ヲ好ムガ、此ノ旅館デ始メテ旨イ珈琲ノ味ヲ覺エタ。然シ朝飯ダケデモ眼

ヲ割ク程高イノデ、此ノ様ナ所ニ居テハ大變ダト、早速大學附近デ下宿探シテ手ゴロノヲ見付ケタ。粗末ナ部屋ダツタガ、寢ラレサヘスレバヨイノダ。食事ハ下宿ノ婆サンニ教ハツテ近クノ「レストラン」ト言ツテモ勞働者ノ行クヤウナ所ヘ行ツテ攝ルコトシタ。廉クテ量ハドツサリアル。又時ニハ下宿デ「バン」ト赤大根位デスマシタコトモアル。

今迄ノ留學生ハ始メノ人ノ贅澤ヲ見ナラツテ、ソレヲ當リ前ノコトニシテ高イ暮シヲシタモノダカラ、ウント金ガ要ツテ、居レナクナツタノダ。自分ノ決心一ツデ、「バン」ト水トデヤツテ行ク積リナラ何處ヘ行ツテモ樂ナモノダ。斯ノ様ニシテ皆ガ高イ高イト言ツテ居タ Wien ノ方ガ Berlin ヨリズツト廉クスンダ。

自分ハ Virchow ノ紹介狀ヲ持ツテ行ツタモノダカラ、Billroth ハ大變ニ優遇シテ呉レタ。自分ハ見學生トシテ、毎日大學ヘ行ツテ臨床講義ヲ聽イタリ、手術ヲ見タリシテ居タノダガ、ソノ時、自分ノ爲態々別ノ席ヲ設ケテ呉レテオ客サン扱ヒダツタ。又其ノ頃 Eiselsberg ハ講師ヲシテ居タガ、此ノ人モ、之カラコンナ手術ヲスルカラ見ニ來ナイカト言ツタ工合ニ仲々親切ニシテ呉レタ。

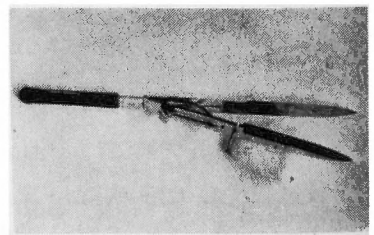
Wien ノ Klinik デ最も感心シタノハ皮膚科ダ。自分ハ此處デ始メテ皮膚病ヲ知ツタ。

Wien ニハ昔 Krätzhaus ト云フ病舎ガアツテ、人ノ嫌ガル皮膚病ノ患者ヲ放リ込シタモノダガ、Hebra ガソノ病舎主任ニナツテ、始メテ皮膚病學ヲ樹立シタノダガ、其ノ時ハ既ニ Hebra 亡ク、Caposi ガ教授ヲシテ居タ。

講義ニハ何ナ疾患ニデモ、ソノ患者ガ 1 小隊程ヅラリト出テ來テ、疾病ノ色々ノ型ヤ、色々ノ時期ヲ示シテ呉レタ、ヨク之ダケ患者ヲ集メルコトガ出來タト感心シタ。ソシテ患者ハ男デモ女デモ眞ッ裸ニナツテ學生席ノ間ヲ巡回シ、少シモ恥カシガラズ言ハレル儘ニ學生ニ診サセテ居タ。此處デ Hautsarkom ヲ始メテ見セテモラツタガ、之ハ今デ思フト Aleucämie ノ Hautknoten ダツタラウ。Lepra ハ大變ニ稀ラシガツテ、北方ノ スエーデン カラ來タ 1 名ノ Lepra 患者ヲ供覽シタゲケダツタ。

兎ニ角、患者ヲヨク集メタコトニハ感心シタ。勿論患者ガ大學ノ講義ト云フコトニ理解モアツタノデアラウガ、又一ツハ無料デ治療ヲ受ケルコトヲ大變有難ガツタ爲デモアラウ。

ソレカラ、先ツキ言ヒ殘シタガ、Virchow ハ何時モ組織ヲ取ルト、ソノ儘 Doppelmesser デ切ツテ染メモセズニ檢微鏡デ觀イテ居タ。自分モソレニ從ツテ、Doppelmesser ヲ用ヒテ居タガソレガコノ Messer ダ(寫眞参照)。又 Virchow ハ Bakterien ト云フ言葉ガ嫌イデ、ドウシテモ言ハネバナラヌトキハ Pilz ト言ツテ居タ。



TÜBINGEN 便り

——在獨大澤助教授が冬の Tübingen から教室の某副手宛に寄せた書信——

拜復 11月13日附の御手紙有難く拜見致しました。度々教室の模様を御知らせ頂き何より嬉しく存じて居ります。懐かしい教室の事は始終念頭を去つたことはなく何事よりも先づ知り度い事であります。厚く御禮申し上げますと共に、今後時々御知らせ下さる様に御願ひ致します。扱て貴下には其後も相變らず御壯健の由慶賀に堪へません、お互ひに、これから何事をかなさんとする者には健康は第1であります。小生も御蔭様で至極く達者で居りますから何卒御安心下さい。

當地の秋も仲々捨て難い趣はありましたが、餘りにも惶しく過ぎ去り、故國の秋を偲んで居るうちにもう何時の間にか嚴寒を迎へた様な有様です。已に11月から降雪を見、今は野も山も森も雪と氷とで閉ざされ、「スキー」や「スケート」をやる人は盛んに活動して居りますが、私はまだ試みる所まで参りません。戸外の寒さと言つたらそれはそれは御想像外で、毎日最低は零下20度だと言へば御察しになれると思ひます。それ故に朝7時半迄に教室に行く時は全く京都の諸君を羨ましく思ふことさへあります。正8時に講義が始まるのですが、嚴寒になつてからは流石に學生は130人位いの内15人位いは遅れて来る様です。何しろ此の土地に來て以來ずつと日本人は私1人きり、それに此教室に私の様に入室して固定した人は今迄に無かつたそうで、何事も小生が日本人の代表の様に注目されて居ますので氣を張る様になります。こちらも日本人の體面にかけてもと言ふ氣持ですから、遅刻せぬは勿論、誰よりも先に行つて平氣な顔をして居るのです。醫員や看護婦などが日本はこれより寒いとか、色々なことを聞きますから、日本は領土の中に熱帯あり寒帯ありどんな寒さもどんな暑さも知つて居る。日本は世界の樂園で、あらゆる種類の研究があり、「スポーツ」の盛んなことは御存じの通りだと言つてやるのです。今は日本は「ラグビー」の季節で時々思ひ出します。こちらは「ラグビー」なく野球なく私に取つては全く淋しいものです。時々「フースバル」、「ハンドバル」などがあるので行つて見ますがこれはとても日本の「スポーツ」の様に熱の持てないものでどうも面白くありません。

Tübingen の教室生活も早や日本流の1學期になりました。「シェフ」は實に勉強家でエネルギーな人だと云ふことは去年の學界の有様からも御想像がつくでせう。重要な手術は殆んど自ら執刀してやる上に讀むこと書くこと驚くばかりであります。始終何事か考へて居る人で時々良い「イデー」が出ます。「シェフ」がこの通りですから醫員達もうっかり出來ません。こちら

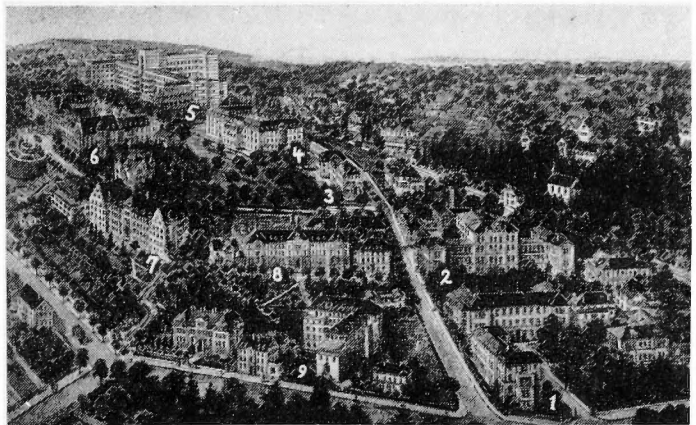


—— 雪の Tübingen ——

の醫員(伯林の醫員もそうでしたが)のよく働くことはまた豫想外です。十數人の醫員中誰 1 人遅刻したり、命ぜられたことをやらないで放つてをく様な人は絶対に有りません。これは獨逸人と云ふものが一般に規則とか秩序と云ふものを嚴守する様に訓練されて居ることの表れだと思つて感心致します。又上長の命令と云ふものに對して如何にも從順な事も感心致します、師長に對する尊敬心の厚いことも感心してよい事の 1 つの大きな事と見られます。ですから教室は「シェフ」の考への通り秩序正しく恰も一心一體の如くに運轉して参ります。各自はその職分を完全に忠實に實行して行きます。本當の立派な教室を擧げての大事業はこれではなくては出来ないと思はれます。教室の「システム」とか手術の事など御知らせし度い事ばかりですが何れひとまとめにして書くか、或は歸朝の上の事であります。何しろまだ伯林と當地の 2 教室で他の教室はいづれ明年の春以後外科學會でもすんだあとで見て廻らうと思つて居ます。併しこの 2 教室は今の獨逸の代表的の教室と言つてもよいでせうが、此の 2 教室に比べて我が京都の教室が決して勝るとも劣つては居ないのです、殊に「アルバイト」の上では遙かに吾々の教室の方が進んで居ることを確信するのであります。吾々の 3 先生が如何に大きな努力を平素拂つて居られるかと言ふことを私はつくづく感謝すると同時に吾々後進の者共は今後餘程自重して勉強して行かなければならぬことを痛切に感ずる次第であります。吾々京都の教室員は日本の中の小競合などを問題にせず、世界の學界に君臨して居るのだと言ふことを心から確信して居る獨逸を相手にしてこれに打ち克ち、之と對立して行かなければなりません。

彼等は實に自惚が強い故に彼等をして認めしめるには、本當に實事の上で明らかに打ちまかさなければならぬと言ふことを實際彼等と交際して見て思ふのです。持つて來た 食道外科の「フィルム」を例にして話すと餘りおこがましい様な氣がしますが、Sauerbruch を始めこちらの教授連中は私の「アルバイト」を読んで私を知つて居て、相當の敬意を表して初めての時は會つては呉れましたが、「フィルム」を持つて來たからお見せし度いと切り出すと『その内見よう』位いの返事で日本人の青二才の「フィルム」などオイソレと見てはこちらの姑券にかかはると云ふ様な態度でありました。でも遂に Sauerbruch の教室及び當地の教室で見せることが出来ました。併しそれ迄には一方ならぬ苦心を致しました。京都の仕事も段々解り、外科寶函が來てあの「アルバイト」を見てから、Sauerbruch の態度が一變し、Tübingen に居る私の所へ 3 度も「フィルム」を見せに來いと云ふ催促でした。又當地では Kirschner 教授の他に婦人科の教授も來られ、その他「プロフェサー」と云ふ肩書の人が 4 人、外科及婦人科教室員全部の前であの「フィルム」が公開されたのでした。Sauerbruch の方はすっかりベテンにかけられた様な氣もしましたが、電報の行きちがひでありました。Sauerbruch が留守になる、丁度 München に出發する、半時間前に私が到着したので、Sauerbruch 教授も大變残念がり、『自分が歸る迄逗留して出来ることなら手術を見せて貰ひ度いのだが』と言ふ申出でありましたが、私は數日の豫定で來て居るのだからと言ふと『では 12 月冬休暇の時患者(噴門癌)を準備するから伯林の教室で手

術を公開して呉れ、今度は電報の行きちがひの無いために来る1週間前に通知して呉れよ』と云つて、最後に永い間私の手をにぎりながら、『これから政治の方面で München で演説する約束をして居るからどうしても同地へ立たねばならぬ事を謝する』『「フィルム」は何れ伯林の學會で「デモンストラチオン」をして貰ふ様に努力する積りだ』と



—— Tübingen 大學鳥瞰圖:——

- 1) 外科 2) 内科 3) 内科病舎 4) 皮膚科
- 5) 外科新館(今年中=落成ノ筈) 6) 神経科 7) 眼科
- 8) 産婦人科 9) 小兒科

言つて別れました。そんな譯でその日教室の助教授以下の人々に見せることになりました。其後手術の件は京都の先生の方へ問ひ合せ(手術の可否)ました所、11月下旬鳥潟教授から Operation abwarten との打電を受取りましたので手術公開を暫く待つことに致しました。

Kirschner 教授は實によくやつたと幾度も繰返し賞揚され(御世辭もありませうが)その場で色々な細かい手術上の質問もされました。同教授は曾てこの方面のことは色々と仕事もされた人で、現在では餘りやつて居られない様ですが、その後私のために特に患者を準備され、特發性食道擴張症に食道胃吻合術をやると云ふ事で開胸されましたが癒着が多いので出来なかつたことは惜しい事でした。然し、開胸を平壓で行ひ50分に及んだことは愉快でした。ここの教室は平壓開胸術賛成(但し京都の様に徹底した考へを發表しません)で臨床講義の時にもその可能なることを述べて居ります。臨床講義のことと云へば數日前には實に面白い事がありました。私は丁度食道狭窄が出て居るので注意して聞いて居ると段々京都の仕事の事を紹介し、今ここに居る「ヤバニツシエ-コレグ」がこの仕事をやつたのだと云ふや學生は一度に足踏みならし、日本の拍手、中には私の方へ舉手する學生もあり、大變面白い面目を施しました。主教授は更に進んで噴門癌手術成績のことや、「フィルム」を見せて貰つたこと迄言及され、非常に好意を示されました。後で助手連の言ふには斯様なことは今迄にない事だつたそうですから、吾々の業績を相當に認めて呉れて居る事は確かで、この地に於ける吾々の目的は達せられた譯であります。

胸腔外科の第1人者食道外科の第1人者を以て自他共に許す Sauerbruch 教授が手術の公開を迫る所以は餘程吾々の成績がぐやしいに相違ないのです。「フィルム」を見せた其場で助手連は好意か惡意か知りませんが、噴門癌7例の治癒、全胃剔除12例の治癒は實に驚異的記録だ、寧ろ

「ファンタステイシエーレズルタート」だと口々に言つて居り、又何等の癒着もない胸腔を平壓で2時間以上も開いたあの「フィルム」を見て不思議だと云ふものもあり、助教授はこれ等の人々に『實は1側なら出来ることだ』と説明して居るのを耳にしました。異壓開胸術の大本山でもその部下は斯く異壓の不要なる事を白狀して居る所を目撃し私は實に胸のすく思ひが致しました。實に京大は否日本は此業績で遂に獨逸を壓へたと言へるでせう。4月の學會に公開したら獨逸外科一般に少からざる刺戟を與へるだらうと今から楽しみにして居ります。彼等は自信が強いだけ又いまだ曾つて兎をぬぐことを敢てせぬ人種丈にその後に来る事を豫期しなければならぬ、彼等は必ず吾々以上の成績をあげ様とあせるだらう、吾々は更に餘程の勉強を必要と思ふ次第であります。併し過壓開胸術は Sauerbruch 教授の生きて居る間にでも既に歴史的のものになつて了ふことは明白であります。

日曜日の午後思ひ出すままに書きましたが、教室の方々に話してあげて下さい、殊に食道外科に關係した諸君には興味深いことと思ひます。

12月17日

大 澤 達

京都外科集談會昭和8年10月例會

10月20日午後6時半ヨリ、帝大樂友會館ニテ開催シ、外國雜誌抄讀ノ他ニ、次記ノ如キ演說ガアツタ。演說ノ要旨ハ本號臨床欄ニ夫々掲載シタ。(幹事 鬼束惇哉)

- | | |
|------------------------------------|-------------|
| 1) 急性炎衝ノ症狀ヲ呈セル頸部腫瘍 | 姫 井 淑君 |
| 2) 「フィラリア」病股腫ニ就テ | 生 野 正君 |
| 3) ブラウン氏補助吻合部腸間膜間隙ニ依ル腸閉塞症ノ1例 | 宮 司 克 己君 |
| 4) 箆頭ヘルニアト誤レル十二指潰瘍穿孔性腹膜炎ノ1例
ニ就テ | 鬼・束 惇 哉君 |
| 5) 直腸癌手術々式ニ就テ | 裕 文 雄君 |
| 6) 腎臓及輸尿管手術2—3例 | 鳥取 都谷技 萬次郎君 |

京都外科集談會昭和8年11月例會

11月20日午後6時半ヨリ、樂友會館ニテ開催シ、外國雜誌抄讀ノ他ニ、次記ノ如キ演說ガアツタ。演說ノ要旨ハ本號臨床欄ニ掲載シタ。掲載漏レノ數氏ノ分ハ次號ニ補フ豫定。(幹事 宮司克己)

- | | |
|---------------|----------|
| 1) 肋骨先天性畸形ノ2例 | 稻 本 晃君 |
| 2) 第4性病ニ就テ | 山 内 達 雄君 |

- | | |
|----------------------|-------------|
| 3) 反張脛骨ノ1例 | 廖 一 雄君 |
| 4) 蜂窩織炎治療ノ1經驗 | 山 中 四 郎君 |
| 5) 膽囊癌標本供覽 | 弘 重 充君 |
| 6) クイネ氏浮腫 | 藤 浪 修 一君 |
| 追 加 | 大阪 大 岡 義 秋君 |
| 7) 開腹術後ノ合併症ノ數例ニ就テ | 鳥取 都谷 技萬次郎君 |
| 8) 搏動性膿瘍 (活動寫眞供覽) | 廖 一 雄君 |
| 9) 「パーキンソニスムス」活動寫眞供覽 | 石 野 琢 二 郎君 |

彙 報

入 會

- | | |
|----------------------------|---------|
| 東京市本郷區駒込千駄木町59日本醫科大學第2醫院外科 | 星 四 郎 |
| 福岡市九大醫學部後藤外科教室內 | 村 瀬 誠 一 |
| 大阪市北區絹笠町大阪回生病院內 | 圖 書 室 |
| 東京市芝區田村町5丁目10ノ6東京病院外科 | 原 玄 洋 |
| 長崎縣南松浦郡福江町公立五島病院 | 太 田 達 策 |

轉 居

- | | |
|----------------------|-----------|
| 愛知縣知多郡豐濱町山田濱海濱病院內 | 鈴 木 三 雄 |
| 姫路市衛戍病院外科 | 中 尾 三 譽 治 |
| 大阪高等女子醫學專門學校外科 | 野 平 藤 雄 |
| 福井縣遠敷郡三宅村市場第15號24 | 玉 井 三 吾 |
| 朝鮮京城樂園洞135 | 朴 昌 薰 |
| 兵庫縣川邊郡小田村杭瀬上島2番地 | 小 河 萬 藏 |
| 福岡市東中洲町 | 關 口 正 郎 |
| 高松市天神前141 | 廣 瀬 研 之 |
| 大阪市天王寺區元町四天王寺施藥療病院外科 | 荒 木 省 吾 |
| 京都市上京區紫野町柳町30 | 鷺 尾 清 治 |
| 大阪府中河內郡天美村城連寺 | 後 藤 翠 |
| 兵庫縣飾磨郡御國野村深宮野 | 鷹 津 冬 一 |
| 鹿児島市武町909大迫様方 | 大 迫 澄 佳 |
| 仙臺市米ヶ袋中ノ坂通25 | 米 村 長 敏 |